

見本

新時代の保育双書

保育内容 表 現

第2版

見本

はじめに

私の身近にいる子どもたちは、描いたり作ったりすることが大好きです。彼らは幼稚園や保育所、認定こども園においてだけでなく、日常生活のなかでもごくあたりまえに行われます。なぐり書きをするようになったばかりの1歳半の女の子は、まだ言葉は話しませんが、歌のようなものを口ずさみながら、楽しそうに色鉛筆をくるくる走らせていました。女の子が絵を書き終え、周囲の者が手をたたいてほめると、彼女は得意そうな顔をします。それはまるで、大切な仕事を仕上げたような満足感にあふれた表情です。表現することは、子どもたちに充実感と誇りをもたらすのです。そして、彼らが作りだす表現は、この時期だけにしか見ることのできないチャーミングなものばかりです。

子どもの造形表現を見ていると、なぐり書きから丸や形が生まれ、人が現れ、やがて絵のなかに楽しい物語が編み出されるようになります。あるいは、ぎこちない手の動きがしだいに巧みになり、粘土や紙からさまざまな形が生みだされるようになってきます。いっしょけんめい感じ、考え、工夫しながら、自分の思いやイメージを表現できることは、人間だけに与えられたすばらしい能力です。

けれども、人は大人になるにつれ、描いたり作ったりすることがだんだん少なくなってきます。さらに現代では、いろいろなものを自分で作らなくてもよくなったおかげで、ますます私たちは手を使わなくなっていました。これでは、私たちに与えられたせっかくの能力に磨きをかけるチャンスが失われてしまいます。子どもはもちろん大人も、描いたり作ったりする喜びを持ち続けたいものです。

本書は、2017年の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定に伴い、それらに込められた乳幼児期の教育・保育への考え方をもとに見直しを行いました。造形表現が、激しい変化の予想される社会を生きる子どもの心身の成長にとって、いかに大切な活動であるか。どんなにたくさんの発見の喜びと工夫の楽しさがあるか。感性を育て、創造性を培い、心と体に生きる力をつけていくことのできる体験であるかについて述べています。また、表現のための環境や指導・援助、小学校との接続・連携についてもより深く考えていただけるようにしました。さらに実践編には、たくさんの魅力的な活動例をあげています。

保育を学ぶ人々はもちろん、保育を実践している保育者や子どもの表現活動にかかわっている方々にも読んでいただき、造形表現を通して子どもたちの生きる力を育んでいただけるよう願っています。

2017年12月

編著者

見本

●目 次●

第Ⅰ部 理論編—表現のことを知ろう

第1章 幼稚園・保育所・認定こども園における表現

第1節 ● 表現ってなんだろう？	13
1——表現することと生きること	/13
2——人間の本能としての表現	/14
3——自己実現としての表現	/16
4——コミュニケーションとしての表現	/17
第2節 ● 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領から考えよう	19
1——「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「資質・能力」	/19
2——それぞれが示す領域表現の「ねらい」	/20
第3節 ● ねらいを理解しよう	23
1——乳児におけるねらい	/23
2——1歳以上3歳未満児におけるねらい	/24
3——自分なりに表現する力を養う	/25
4——豊かな感性を育てる	/27
5——イメージを豊かにする	/33
6——創造性を培う	/34
コラム：あっと驚いたスクラッチ！	/43

第2章 子どもの造形活動の発達と特徴

第1節 ● 幼児の造形活動の発達を考える	45
1——幼児の生活と造形活動	/45
2——子どもの造形表現の特徴—見ることよりも触れること—	/46
第2節 ● 児童期以降の造形活動	48
1——小学校低学年	/48
2——小学校中学年	/49
3——小学校高学年	/49
4——中学生以降	/49

見本

第3節 ● 絵を描く活動はどのように発達するか 50

- 1 ——なぐり書き（スクリブル）——身体を使った大切な活動一 /50
- 2 ——線表現・輪郭線——具体的な形が出るまえに一 /52
- 3 ——形の出現 /52
- 4 ——名前をつける /53
- 5 ——イメージをもって絵を描く /53
- 6 ——獲得したイメージを表す二つの方法
——マンダラと組み合わせ一 /54
- 7 ——描きたいものを並べる /55
- 8 ——お話が出てくる /56

第4節 ● 子どもの絵に特徴的な表現を見る 57

- 1 ——頭足人と観面混合 /57
- 2 ——要素の区分的表現 /59
- 3 ——基底線表現 /59
- 4 ——転倒式構図——線から面への移行の始まり一 /60
- 5 ——多視点構図と鳥瞰式構図 /61
- 6 ——積上遠近法 /62
- 7 ——レントゲン描法 /63
- 8 ——集中比例 /64
- 9 ——時間差描法 /64
- 10 ——同色塗りと平行遠近法 /65

第5節 ● 子どもに特徴的な表現と芸術のつながり 66

第6節 ● 立体造形の発達を見る 67

- 1 ——幼児期の「造形活動」 /67
- 2 ——造形活動の二つのタイプ /67
- 3 ——造形活動の展開 /69
- 4 ——造形活動の発達 /71
- 5 ——遊びの広がり——「マイナスの造形」の活動様式一 /74

コラム：子どもがもっとも成長するとき /78

第3章 表現を育てる環境

第1節 ● 0、1、2歳児の造形環境 79

- 1 ——身体と環境——乳幼児は未熟一 /79
- 2 ——おおむね 0、1、2歳児の造形環境が育むもの /80

第2節 ● 3歳児の造形環境 82

見本

1 ——おおむね 3歳児の造形環境が育むもの	/82
2 ——おおむね 2～3歳児の描画環境	/83
第3節 ● 4歳児の造形環境	----- 84
1 ——おおむね 3～4歳児の造形環境が育むもの	/84
2 ——立体造形と描画環境	/85
第4節 ● 5歳児の造形環境	----- 86
1 ——おおむね 4～5歳児の造形環境が育むもの	/86
2 ——おおむね 5～6歳児の造形環境が育むもの	/88
コラム：エコロジーと造形	/89

第4章 表現を育てる保育者の指導・援助

第1節 ● 0、1、2歳児の造形援助	----- 91
1 ——おおむね 0歳児の場合	/91
2 ——おおむね 0歳児と造形援助	/92
3 ——おおむね 1～2歳児の場合	/93
第2節 ● 3、4、5歳児の造形援助	----- 96
1 ——おおむね 3～4歳児の場合	/96
2 ——おおむね 5歳児の場合	/99
コラム：日本の美しさ	/101

第5章 幼児造形表現教育の広がり

第1節 ● 小学校との接続と連携	----- 103
1 ——子どもの成長を支える接続	/103
2 ——「表現」と「図画工作科」の接続	/104
3 ——小学校との接続と連携	/107
第2節 ● 美術館と保育現場の連携	----- 112
1 ——幼児の美術鑑賞	/112
2 ——幼児対象の鑑賞プログラム（大原美術館の事例）	/112
3 ——幼児から大人まで対象の展覧会 (北九州市立美術館の事例)	/113
4 ——子どもを通して地域をつなぐ (神戸市立小磯記念美術館の事例)	/114
5 ——その他の美術鑑賞	/115
コラム：美術館に行ってみよう	/117

見本

第Ⅱ部 実践編－造形遊びの事例から学ぼう

造形遊びの事例の一覧 / 120

おおむね 0歳児

- 事例1 「いない　いない　ばあ」 / 121
- 事例2 「おみず　ぴちゃぴちゃ　ぎゅ～…」 / 122
- 事例3 「つまんでポットン…」 / 123
- 事例4 「ひっぱれ～」 / 124
- 事例5 「出したり入れたり転がしたり…」 / 125

おおむね 1歳児

- 事例6 「寒天で遊ぼう！」 / 126
- 事例7 「新聞紙で遊ぼう！」 / 127
- 事例8 「アルミホイルをめくって遊ぼう！」 / 128
- 事例9 「容器がいっぱい！」 / 129
- 事例10 「ひっかけて遊ぼう！」 / 130
- 事例11 「小麦粉粘土で遊ぼう！」 / 131

おおむね 1～2歳児

- 事例12 「ひもとおし」 / 132

おおむね 2歳児

- 事例13 「絵の具グチュグチュ…」 / 133
- 事例14 「床全体を使った構成遊び」 / 134
- 事例15 「プレゼントをどうぞ！」 / 135
- 事例16 「積み木と箱を組み合わせて」 / 136
- 事例17 「トイレットペーパー粘土・1」 / 137
- 事例18 「ハサミでチョキチョキ」 / 138
- 事例19 「洗濯バサミを使って」 / 139
- 事例20 「シュレッダーの紙がいっぱい！」 / 140

おおむね 3歳児

- 事例21 「透明素材をつなげて」 / 141
- 事例22 「シールで遊ぼう」 / 142

見本

- 事例23 「クリスマスツリー」 /143
- 事例24 「ケーキをつくろう・1」 /144
- 事例25 「ケーキをつくろう・2」 /145
- 事例26 「小麦粉粘土でパン屋さん」 /146
- 事例27 「スライムで飾ろう」 /147
- 事例28 「きのこのおうち」 /148
- 事例29 「バスで出発！」 /149

おおむね4歳児

- 事例30 「トイレットペーパー粘土・2」 /150
- 事例31 「カレンダーをつくろう」 /151
- 事例32 「色紙遊び」 /152
- 事例33 「リンゴの森へ行ってみよう！」 /153
- 事例34 「パフェだいすき！」 /154
- 事例35 「いろいろ虫の冒険」 /155
- 事例36 「おかしやさん」 /156
- 事例37 「傘さしてお出かけ」 /157
- 事例38 「長い棒があったなら」 /158

おおむね5歳児

- 事例39 「私のお家に遊びにおいて」 /159
- 事例40 「切って、折ってなにができるかな？」 /160
- 事例41 「おしゃれなくつやさん」 /161
- 事例42 「オリジナル植木鉢—作ったものを生活に生かそう—」 /162

おおむね5～6歳児

- 事例43 「絵本を読んで、絵を描こう—例『まじょのくに』—」 /163
- 事例44 「土粘土遊び」 /164
- 事例45 「経験したことを描いてみよう」 /165
- 事例46 「絵本のなかに入ってみよう」 /166
- 事例47 「自然物を使って表現してみよう」 /167
- 事例48 「フィンガーペイント」 /168

付 錄 表現のための基本技法 /169

索 引 /175

第1章

幼稚園・保育所・ 認定こども園における表現

◆キーポイント◆

「表現」とは、人間にとてどういうことを意味するのだろうか。さらに、教育・保育の対象となる乳幼児にとっての表現とはなんだろうか。

ここでは、幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園における「領域 表現」のなかの造形的な表現についての基本的な考え方や知識、また、保育者としてもってほしい視点について学ぶ。そして、表現することが楽しいことであることはもちろん、活動のプロセスが子どもの自我を育て、彼らの生きる力の基礎を育てていくことを知る。

第1節 ● 表現ってなんだろう？

1 —— 表現することと生きること

えのぐは黒が一番しぶい色だ
えのぐは赤があざやかな色だ
えのぐは青がすみきった色だ
えのぐは黄色がさわやかな色だ
えのぐはみんな個性があるものだ

(川崎洋編『子どもの詩』¹⁾より 作者は当時、小学校6年の平野淳君)

この詩の作者は、絵の具の一つひとつの色の特徴をみごとに言葉で表現している。きっと彼は、それぞれの色の持ち味を生かしながら、思いを込めて絵を描いていたのだろう。同時にこの詩は、保育や教育の本質をみごとに言い当てている。一人ひとりの子どもの違いや個性を認めて、それらを大事に育てようと教えてくれているようだ。表現においても同様のことがいえる。子どもの表現はみんな違う。とくに乳幼児期の表現には、それぞれの作品にその子ども独自の豊かな個性が表れる。子どもが、まず自分の表現が認められ、やがて他の子どもの表現も受け入れていくようになると、まさに冒頭の詩のような世界観が生まれてくる。この詩に表現されるような感性を育むことは平和教育にも通じると考えるが、小学校1年生では図画工作の時間が、1980年以降それまでの102単位から68単位に減っている（2、3年生において

は、すでに1961年より約2/3に減っている)。幼小の接続を考えると残念なことであるが、少なくとも保育・幼児教育においては、子どもたちに造形表現の機会ができるだけ用意したいものである。それらの活動を通して、子どもたち自身が、表現における答えは一つではなく、「子どもには、100のことばがある」(ローリス・マラグッティ／レッジョ・エミリア・アプローチ)ことを自然に理解し、互いを尊重し合えるように導きたい。

幼稚園教育要領には、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う」(第1章 総則)とある。また、保育所保育指針には、「保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期」(第1章 総則)を過ごす場であるとし、さらに、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、「乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う」(第1章 総則)とあり、幼児教育・保育の重要性を謳っている。その時期に子どもたちが、いろいろな方法で自分らしい表現を行いながら生活し、作品を通して自分自身を確認し、それによって彼らの存在や個性が尊重されることは、子どもにとって生きることそのものであるといえよう。



姉妹でもこんなに表現は違う(左：4歳、右：5歳)

2 —— 人間の本能としての表現

人類最古の絵画といわれるものに、アルタミラ(スペイン)やラスコー(フランス)の壁画がある。これらは、今から約1万5千～2万年前に描かれたといわれている。絵を描いた目的にはいろいろな説があるが、画材や道具も乏しく、照明もない暗い洞窟の壁に絵を描くのは、さぞかしたいへんな作

● 「第1章」学びの確認

- ①人間にとって「表現すること」の意味を考えてみましょう。
- ②幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」と他の領域の関係を確認してみましょう。
- ③子どもの頃、どんな造形表現をしたか、そのどんなところが楽しかったか、書き出してみましょう。

● 発展的な学びへ

- ①「春（夏・秋・冬）を見つけよう」というテーマで、その季節を感じたものを写真に撮ったり持参したりして、互いに発表し合いましょう。
- ②創造性を培う造形表現やおもちゃについて研究しましょう。
- ③造形的な表現を育てることと自我の成長について考えてください。

引用・参考文献

- 1) 浅見千鶴子・稻毛教子・野田雅子『乳幼児の発達心理1』大日本図書 1980年
- 2) 浅見千鶴子・稻毛教子・野田雅子『乳幼児の発達心理3』大日本図書 1980年
- 3) 石戸奈々子『子どもの想像力スイッチ!』フィルムアート社 2014年
- 4) ヴィゴツキー, L.S. (広瀬信雄訳)『子どもの想像力と創造』新読書社 2002年
- 5) 岡本夏木『幼児期—子どもは世界をどうつかむか』岩波書店 2005年
- 6) 川崎洋編『子どもの詩』文藝春秋 2000年
- 7) 教育と医学の会編『知と感性をそだてる』慶應義塾大学出版会 2002年
- 8) 高橋史郎編『現代のエスプリ 感性教育』至文堂 1997年
- 9) 中川香子『お母さんにわかってほしい幼児期のお絵かき』PHP研究所 2006年
- 10) 中村雄二郎『感性の覚醒』岩波書店 1997年
- 11) マスロー, A.H. (佐藤三郎・佐藤全弘訳)『創造的人間』誠信書房 1972年
- 12) みきこうわ『子どもたちの不思議』創和出版 1992年
- 13) 山極寿一『人類進化論』裳華房 2008年
- 14) C.エドワーズ・L.ガンディーニ・G.フォアマン編 (佐藤学・森真理・塚田美紀訳)『子どもたちの100の言葉』世織書房 2001年
- 15) レッジョ・チルドレン (田辺敬子他訳)『子どもたちの100の言葉』学研 2001年

あっと驚いたスクラッチ！

私が幼稚園の頃といえば、ウン十年前になる。幼稚園に通う子どもも少なかった！？時代である。幼稚園での思い出はいろいろあるが、そのいくつかは今でも鮮明に思い出す。なかでも強烈な印象が残っているのが、スクラッチ（ひっかき絵）である。

まずは、先生に言わされたように、パスで画用紙にいろいろな色を塗っていった。好きな色をいくつも塗っていった。ところが画面がきれいな色でいっぱいになると、先生はその上に黒を塗りなさい、とおっしゃる。「えーっ、せっかくきれいに塗ったのに、なんで……」と思いつつも、言われるままに黒のパスで塗りつぶしていった。塗り終わった真っ黒な画用紙を前にポカンとしていると、今度は、「そこに好きな絵を描きましょう。」と言われ、釘（だったと思う）をもらった。わけがわからないまま、真っ黒い画用紙に線を引いた。すると、なんということだろう。黒い色の下からきれいな色——先ほどていねいに塗った赤や青、桃色たちが現れてきたのだ。これには、驚いた。感動した。まるで魔法のようだった。

造形遊びは自分の手を使って行い、最後に作品が残るので、子ども心にもインパクトが強い。とくに初めての経験は、まさに「未知との遭遇」である。新しい世界がパッと開ける。そして、一生懸命活動に取り組むと、その後、なんとも心地よい満足感にひたることができる。自分が大きくなったような、ちょっとびり誇らしい気持ちになるのである。



スクラッチ（表紙カバーにカラー画像を掲載）

見本

造形遊びの事例の一覧

おおむね 0歳児

- 事例 1 「いない　いない　ぱあ」／121
- 事例 2 「おみず　ぴちゃぴちゃ　ぎゅ～…」／122
- 事例 3 「つまんでポットン…」／123
- 事例 4 「ひっぱれ～」／124
- 事例 5 「出したり入れたり転がしたり…」／125

おおむね 1歳児

- 事例 6 「寒天で遊ぼう！」／126
- 事例 7 「新聞紙で遊ぼう！」／127
- 事例 8 「アルミホイルをめくって遊ぼう！」／128
- 事例 9 「容器がいっぱい！」／129
- 事例 10 「ひっかけて遊ぼう！」／130
- 事例 11 「小麦粉粘土で遊ぼう！」／131

おおむね 1～2歳児

- 事例 12 「ひもとおし」／132

おおむね 2歳児

- 事例 13 「絵の具グチュグチュ…」／133
- 事例 14 「床全体を使った構成遊び」／134
- 事例 15 「プレゼントをどうぞ！」／135
- 事例 16 「積み木と箱を組み合わせて」／136
- 事例 17 「トイレットペーパー粘土・1」／137
- 事例 18 「ハサミでチョキチョキ」／138
- 事例 19 「洗濯バサミを使って」／139
- 事例 20 「シュレッダーの紙がいっぱい！」／140

おおむね 3歳児

- 事例 21 「透明素材をつなげて」／141
- 事例 22 「シールで遊ぼう」／142
- 事例 23 「クリスマスツリー」／143
- 事例 24 「ケーキをつくろう・1」／144
- 事例 25 「ケーキをつくろう・2」／145
- 事例 26 「小麦粉粘土でパン屋さん」／146
- 事例 27 「スライムで飾ろう」／147
- 事例 28 「きのこのおうち」／148
- 事例 29 「バスで出発！」／149

おおむね 4歳児

- 事例 30 「トイレットペーパー粘土・2」／150
- 事例 31 「カレンダーをつくろう」／151
- 事例 32 「色紙遊び」／152
- 事例 33 「リンゴの森へ行ってみよう！」／153
- 事例 34 「パフェだいすき！」／154
- 事例 35 「いろいろ虫の冒険」／155
- 事例 36 「おかしやさん」／156
- 事例 37 「傘さしてお出かけ」／157
- 事例 38 「長い棒があったなら」／158

おおむね 5歳児

- 事例 39 「私のお家に遊びにおいで」／159
- 事例 40 「切って、折ってなにができるかな？」／160
- 事例 41 「おしゃれなくつやさん」／161
- 事例 42 「オリジナル植木鉢一作ったものを生活
に生かそうー」／162

おおむね 5～6歳児

- 事例 43 「絵本を読んで、絵を描こう一例『まじょ
のくに』ー」／163
- 事例 44 「土粘土遊び」／164
- 事例 45 「経験したことを描いてみよう」／165
- 事例 46 「絵本のなかに入ってみよう」／166
- 事例 47 「自然物を使って表現してみよう」／167
- 事例 48 「フィンガーペイント」／168

事例協力

- ・城南短期大学附属幼稚園(大阪府大阪市)
- ・住の江幼稚園(大阪府大阪市)
- ・住の江幼稚園キッズアートクラブ
- ・千里山やまと学園(大阪府吹田市)
- ・たしばな保育園(大阪府茨木市)
- ・たんぽぽ安威保育園(大阪府茨木市)
- ・たんぽぽ保育園(大阪府茨木市)
- ・たんぽぽ中条保育園(大阪府茨木市)
- ・東粉浜幼稚園(大阪府大阪市)
- ・やわらぎ保育園(大阪府南河内郡)
- ・保育造形研究会

事例1 おおむね0歳児

「いない いない ばあ」

どんなことをやるの？

段ボール箱やベビーベッドの下部に、子どもが這って入れるトンネルをつくります。トンネルの入り口にはすずらんテープを暖簾状にしたカーテンをつけたり、壁にはいろいろな大きさの穴を空けて素材を入れたり、子どもがのぞいたりできるようにします。保育者は「ないないないばあ」遊びや、「まてまてまて～」と声をかけ、子どもがハイハイで逃げる遊びをします。

子どもの様子

子どもたちはトンネルに興味をもって、四つ這いで入っていきます。保育者に見つけてもらうために、カーテンに隠れたり、くりぬいた穴から顔をのぞかせたりします。素材の出し入れと、保育者の身振りや言葉がけで、繰り返し全身を使ったやり取り遊びが楽しめます。

配慮事項

- ・段ボール箱は、子どもが寄りかかったり、乗ったりします。箱の大きさ、上部の開放、床への固定など、保育者間で事前に子どもの発達とあわせて話し合っておきます。
- ・段ボール箱の切り口は子どもが指を切らないように、テープなどを貼ってカバーしておきます。
- ・ベビーベッドは、子どもが頭を打たない程度の高さのものを使います。

● 準備物

ベビーベッドの下に段ボールなどを貼ってつくったトンネル、段ボールでつくって穴を空けたトンネルや家、穴に入れるもの（積み木など）。



「ないないないばあ！」



「入ったかな？」

